

柔道世界大会 グランドスラムを制す

市内初 市民栄誉賞受賞

下野市出身の高藤直寿選手は、二月三日(金)、国立代々木競技場で開催された柔道グランドスラム東京2012において、男子8キログラム級で見事優勝の栄冠を手に入れました。

この大会は嘉納治五郎杯東京国際柔道大会が2009年から名称が変更された大会で、国際柔道連盟(IJF)が主催する国際柔道大会です。

トーナメント同階級には日本人4名を含む14か国、21名の選手が出場。各国の強豪選手を打ち破り、準決勝はフランスのミル―選手と対戦。袖釣り込み腰で勝利を収めました。

決勝戦は日本人対決となる石川裕紀選手(白鷗大学足利高校出身)と対戦し、肩車で一本勝ちとなりました。

◇高藤直寿(たかとう なおひき) 選手プロフィール

1993年5月、下野市小金井(下町)に生まれる。

国分寺小学校を卒業。幼少のころ柔道家の父に連れられ、第88回関東中学校柔道大会に出場した国分寺中学校の応援に行ったときに柔道に魅了され、柔道場に通うようになる。

小学校五・六年生と全国少年学年別柔道大会において軽量の部2連覇を成し遂げる。更なる高みを目指し、神奈川県東海大相模高校・中等部に進学する。中学から数々の大会で優勝。3年生で全国中学校柔道大会80キログラム級優勝。インターハイで2連覇。2011年には南アフリカ・ケープタウンで世界ジュニア柔道選手権大会男子80キログラム級で金メダル。同年のグランドスラム東京大会で3位に入賞。

東海大学に進学し臨んだ5月に行われたグランドスラム・モスクワ2012で優勝する。